

令和7年度東部地区道徳教育研究協議会

松伏町立金杉小学校

【高学年部会】

主 題 名 互いに信頼し合う友情

内容項目 B 友情、信頼

教 材 名 「離れていても」

(彩の国の道徳「未来に生きる」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入のアンケートが効果的であり、自分事として学びに向かう姿勢につながっていた。
- 思考ツールは考えを整理したり、友達の考えを知ったりするという点で効果的であった。
また、自分の考えをアウトプットすることにも生かされていた。さらに、話合いに生かしていくとよい。また、思考ツールの種類についても、場合により検討していくとよい。
- 児童の話合いからテーマとなる「信頼」という言葉が出てきたことがよかった。児童の考えを生かして、ねらいに迫っていくとよい。
- 効果的な補助発問を行うことで、児童の考えがより深まることが分かった。
- ICTの効果的な活用により、話合いが深まる。

2 指導講評

- 導入のアンケートは効果的であり、スムーズに授業に入っていた。本時の課題は児童から出された考えを生かしてもよかったのではないかと。
- 発問数については、精選が必要。最後の発問1つが主発問で、残りは補助発問としてもよかった。授業者の効果的な補助発問により、児童の考えの変容が見られた。
- 思考ツールの活用は、道徳の授業において多面的多角的に考える上で重要である。思考ツールを議論のもととして、働きかけを工夫していくとよい。ICTにこだわらず、実態に応じて紙等で思考ツールを活用してもよい。
- 考え議論する道徳を行うにあたり、学習指導要領解説を確認することが大切である。道徳の時間は、道徳性（内面的資質）を養うことがゴール。主体的な学習、問題解決的な学習、自己の考えについて考えを深めるなど、学習指導要領解説をみて確認することが大切である。
- 評価については、道徳性が身に付いたかを評価するのではなく、自己の成長を実感し、意欲の向上につなげていくものである。指導と評価の一体化が大切である。
- 難しく考えすぎず、楽しく道徳の授業に取り組んでほしい。

